



ラウンドテーブル春2026 開催報告

令和8年2月14日(土) ラウンドテーブル春2026が開催されました。

【午前の部】

基調講演では、東京大学大学院教授の浅井幸子先生をお招きし、「協同的で探究的な学びの実現をめざした授業研究」というテーマでご講演いただきました。

講演では、学校現場で日々行われている授業研究の歴史とその多様性について、「モデルの提示」「カリキュラム・教育方法の改革」「教師の専門的な成長」「同僚性の構築」という4つの目的に沿ってお話をいただきました。さらに、教師の専門的な成長を目指す授業研究と、同僚性の構築を目指す授業研究の違いを具体的な授業検討会の事例を交えてお話しくださいました。今後の授業研究の在り方を改めて見つめ直す、極めて貴重な機会となりました。

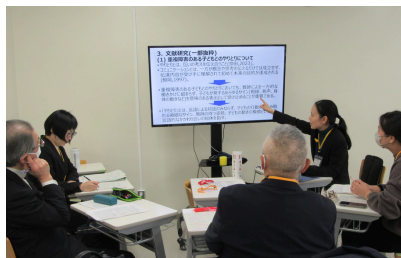


【午後の部】

学びのコミュニティ「ラウンドテーブル」

午後は、校種や職種の垣根を越えた少人数のグループに分かれ、報告者の実践事例をもとに、多様な立場の参加者が共に省察し、学びを深めました。

日常の実践で得た成果や直面している課題について率直に意見を交わす中で、多角的な視点から解決のヒントを得たり、新たな気づきに触れたり、対話の輪が広がりました。終了後の参加者の皆さんの晴れやかな笑顔が非常に印象的であり、一日を通してとても充実した時間となりました。



教職大学院について詳しく知りたいときは・・・

教職大学院の情報は
こちら↓



入試情報は
こちら↓



《お問い合わせ先》

福島大学 人間発達文化学類 支援室
Mail: ningen@adb.fukushima-u.ac.jp
Tel: 024-548-8103



最終報告会

令和8年2月19日（木）、大学院2年生による研究最終報告会が開催されました。この2年間、「理論と実践の往還」を研究の核に据え、教育現場での課題解決に向けた研究に邁進してまいりました。これまで、大学院の先生方や院生同士で研究経過を共有し、幾度となく意見交換を重ねてきました。多角的な視点からの助言を糧に、試行錯誤を繰り返しながら形にした研究成果と今後の課題を、この度「集大成」として報告書にまとめ、発表することができました。

本研究の遂行にあたり、多大なるご協力を賜りました連携協力校の児童生徒の皆さん、ならびに先生方に心より感謝申し上げます。また、熱心にご指導いただいた大学院の先生方、貴重な研修の機会を設けてくださいました福島県教育委員会、各教育事務所、市町村教育委員会、関係機関、そして温かく送り出してくださいました所属校の先生方に、深く御礼申し上げます。

今回の研究で得た知見を今後の教育実践に還元し、福島の教育の発展に寄与できるよう、より一層精進してまいります。



最終報告 M2 研究テーマ

特別支援学校（知的障害）の「読むこと」の授業づくり

—物語を読んで登場人物の動きや気持ちを捉えるために— 遠藤 汐莉

若手教員が授業実践力を高めるためのミドルリーダーのかかわり

—算数科の授業の省察を通して— 大田 千尋

教師が協働して取り組む校内研修の在り方

久能 彩香

小学5年生を対象とした児童の援助要請の意欲の変容

—他者の視点の可視化による心理的障壁の低減に着目して— 舘内 謙昌

創造的思考を働かせた小学校における造形活動

—MESHの効果と可能性に関する考察— 中村 道子

キャリア教育の基礎的・汎用的能力を育む社会科の单元デザイン・授業づくり

—これからの社会を創造しようとする児童の育成を目指して— 吉田 亘

特別支援学校（知的障害）小学部国語科の授業づくり

—知的障害のある児童の伝え合う力の育成を目指して— 脇坂 茉里

なお、上記の最終報告書は、「福島大学学術機関リポジトリ」に公開しております。右記のQRコードからアクセスいただき、サイト内にて「2025年度教育実践報告書」と検索してご覧ください。

多くの方にご一読いただけますと幸いです。



福島大学学術機関リポジトリ
QRコード